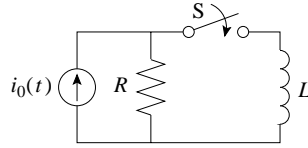


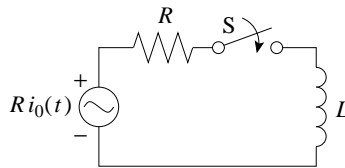
### 小テスト

図の回路で、 $t = 0$  でスイッチ  $S$  を閉じ、交流電流  $i_0(t) = I_0 \sin(\omega t + \theta)$  を流したときコイル  $L$  に流れる電流  $i(t)$  を求めなさい。ただし、コイル  $L$  の初期電流は  $0$  とする。



### 解答

テブナンの定理により電流源を電圧源に置き換える



回路方程式は

$$L \frac{di(t)}{dt} + Ri(t) = RI_0 \sin(\omega t + \theta)$$

上式の解を定常解  $i_s(t)$  と過渡解  $i_t(t)$  に分けて考えると、それぞれ

$$L \frac{di_s(t)}{dt} + Ri_s(t) = RI_0 \sin(\omega t + \theta)$$

$$L \frac{di_t(t)}{dt} + Ri_t(t) = 0$$

まず、定常解について解く、交流理論を用いて  $d/dt \rightarrow j\omega$  として

$$j\omega LI_s + RI_s = RI_0 e^{j\theta}$$

上式を  $I_s$  について解くと

$$\begin{aligned} I_s &= \frac{RI_0}{R + j\omega L} e^{j\theta} \\ &= \frac{RI_0}{\sqrt{R^2 + (\omega L)^2}} e^{j(\theta - \phi')} \quad \left( \phi' = \tan^{-1} \frac{\omega L}{R} \right) \end{aligned}$$

よって、定常解  $i_s(t)$  は

$$i_s(t) = I_m \sin(\omega t + \theta - \phi') \quad \left( I_m = \frac{RI_0}{\sqrt{R^2 + (\omega L)^2}} \right)$$

となる。

一方、過渡解は

$$i_t(t) = Ae^{-\frac{R}{L}t} \quad (A: \text{積分定数})$$

となる。

よって、電流  $i(t)$  の一般解は

$$\begin{aligned} i(t) &= i_s(t) + i_t(t) \\ &= I_m \sin(\omega t + \theta - \phi') + Ae^{-\frac{R}{L}t} \end{aligned}$$

となる。

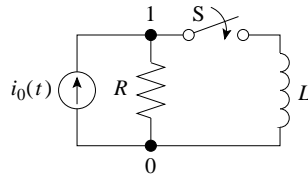
ここで、初期条件として  $t = 0$  で  $i(0) = 0$  を代入すると

$$i(0) = I_m \sin(\theta - \phi') + A = 0 \quad \rightarrow \quad A = -I_m \sin(\theta - \phi')$$

よって、電流  $i(t)$  は

$$\begin{aligned} i(t) &= I_m \sin(\omega t + \theta - \phi') - I_m \sin(\theta - \phi') e^{-\frac{R}{L}t} \\ &= \frac{RI_0}{\sqrt{R^2 + (\omega L)^2}} \left\{ \sin(\omega t + \theta - \phi') - \sin(\theta - \phi') e^{-\frac{R}{L}t} \right\} \end{aligned}$$

別解



上図のように節点を設定すると、スイッチを入れた後の回路の節点方程式は

$$\frac{v_1(t)}{R} + \frac{1}{L} \int v_1(t) dt = i_0(t)$$

ここで、コイルに流れる電流と電圧の関係  $v_1(t) = L \frac{di(t)}{dt}$  を用いると、

$$\frac{L}{R} \frac{di(t)}{dt} + i(t) = i_0(t)$$

両辺を  $R$  倍すると解答の回路方程式と同じになり、同様に解ける。